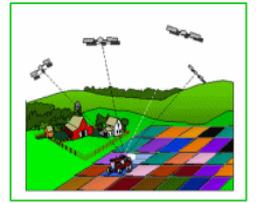




# 北海道情報化農業ニュース

北海道における持続的な農業の発展のための情報技術の活用促進  
およびその健全な普及を図る。



● 「2012 年度秋期シンポジウム」の開催案内 ● 「平成 24 年度北海道地域マッチングフォーラム」の開催案内 ● ●

号外 2012. 09. 07

農業情報学会より「2012 年度秋期シンポジウム」、農研機構北海道農業研究センターより「平成 24 年度北海道地域マッチングフォーラム」の開催案内がありましたのでお知らせします。

## 農業情報学会 2012 年度秋期シンポジウム 「スマート農業」

- 日時：2012 年 10 月 3 日 9:30～17:00
- 場所：十勝プラザ レインボーホール（帯広駅南口正面）
- 主催：農業情報学会
- 共催：帯広市、一般社団法人 ALFAE（アジア太平洋 食・農・環境拠点）、計測自動制御学会 計測部門 アンビエント・センシング応用部会
- 後援：NPO 法人 グリーンテクノバンク
- 参加費：無料

### ■趣旨

情報通信技術(ICT)の進歩により農業生産性の向上や品種改良の効率化など具体的な課題に取り組むことができるようになり始めているが、研究開発及び導入の初期段階では大規模な圃場と ICT ビジネスを持続的に展開できる程度の生産規模があることが望ましい。

農業生産の低コスト化のためには圃场面積の大規模化が極めて重要である。大規模農業においては圃場や作物、経営等の膨大な情報を人間では把握しきれなくなるため、高度なセンシング技術、多種多様なクラウドサービス、解析技術等を駆使するスマート農業の確立が不可欠となる。北海道の大規模農業における農業研究は欧米と同じ土俵にあり、スマート農業のテストベッドとして先導的な役割を果たすことが期待される。

北海道の農業は大規模であるが、とくに十勝管区においては平均耕地面積 40ha/戸と欧州なみであり、食料自給率は 1000%を越えている。このメリットを活用し、さらに発展させるため、「フードバレーとかち」というコンセプトで戦略的な取り組みが始まっている。また、札幌圏とともに「国際フード特区」に指定されたところである。

多様な食材、豊かな自然、庭園、温泉（指宿なみと言われる）があり、さらに帯広市の都市機能（ショップ、飲食店、CATV、地域 WiMAX 等）もあり、オフィス賃料は東京圏に比べて極めて安価であるため ICT ビジネス等の起業に適している。加えて豊富な太陽エネルギー賦存量を活用した太陽光発電、山間部では小水力発電などのエネルギーリソースが豊富にある。

こういった多様な地域リソースを組み合わせた第六次産業の育成、冷涼な環境と自然エネルギーを活用したデータセンター、夏だけ滞在するサマーオフィス、消費ニーズを拡大する SNS、ノマド等の新しい就労スタイルなど、ICT の活用が期待される場面は多い。

本シンポジウムでは、このような観点で講演及びディスカッションを行う。

### ■プログラム（案）

9:30 オープニング

学会長挨拶／リモートセンシング技術 大政 氏（東大）

『国際フード特区及び「フードバレーとかち」とスマート農業』帯広市&平藤雅之 氏（農研機構）

「北海道の作物・食・観光リソース」 横田 氏（農研機構）

「スマート農業」総論 町田武美 氏、永木正和 氏（学会創立 25 周年記念出版編修委員会）  
10:30 地域リソースとスマート農業  
「大規模畑輪作における課題」 辻 氏（農研機構）  
「大規模農業における気象データの活用」 廣田知良 氏（農研機構・北農研）  
「長野県におけるスマート農業の展開」 斉藤 氏（信州大）

11:30 （昼食）

12:30 スマート農業技術  
「スマート農業のためのセンシング技術」 亀岡 氏（三重大）  
「スマート農業とロボティクス」 （北大）  
「窒素肥沃度マップベースの可変施肥システム」 丹羽勝久 氏（ズコーシャ）  
「超小型衛星の可能性」 油井章宏 氏（IHI）  
「地上観測、UAV、衛星のデータ統合」 本多潔 氏（中部大）  
「スマート農業に向けたクラウド利用の課題と一取り組み」 吉田智一 氏（農研機構・中央農研）

14:30 （休憩）

14:40 フィールド・フェノミクス  
「フェノミクスの手法」  
①アソシエーション解析 岩田 氏（東大）  
②植物の測定・データ統合 二宮 氏（東大）

「北海道農業研究センター芽室研究拠点での取り組み」  
①フィールド・フェノミクスセンターの提案 平藤雅之 氏（農研機構）  
②フェノミクス育種の可能性 田口 氏（農研機構）  
③圃場データ収集の課題 浅野 氏（農研機構）  
④共生微生物の網羅的測定 池田 氏（農研機構）

16:30 総合討論  
17:00 閉会

~~~~~  
**平成 24 年度北海道地域マッチングフォーラム開催要領**  
**「農業 IT 等先端技術を利用した畑作機械化農業の新たな展開」**

- 日時：平成 24 年 10 月 4 日（木）（10:30～15:15）
- 場所：十勝プラザ（帯広市西 4 条南 13 丁目 1 番地）  
農研機構北海道農業研究センター芽室研究拠点（河西郡芽室町新生南 9-4）
- 主催：農林水産省農林水産技術会議事務局、農研機構北海道農業研究センター
- 協賛：北海道、地方独立行政法人北海道立総合研究機構（道総研）農業研究本部、北海道開発局、北海道農政事務所、十勝農業協同組合連合会、（社）北海道農業機械工業会、NPO 法人グリーンテクノバンク
- 参集範囲：生産者（生産者団体を含む）、行政・普及関係者、研究関係者、関係団体・企業、その他農作業の IT 化に関心のある方
- 参加費：無料
- 参加定員：200 名

■趣旨

農業現場のニーズを踏まえた農業研究の推進と、研究成果の農業現場等への迅速な普及・実用化を促進することにより、地域農業の振興を図るため、研究者、普及指導員、生産者、行政担当者、実需者等が双方向の意見・情報交換を行う地域マッチングフォーラムを開催いたします。

平成 24 年度は農業における情報技術（IT）等の活用に関する研究が進む中で、これまでの開発技術を紹介するとともに、それらの具体的な営農現場での利用・普及についてのマッチングを図るとともに、それらを用いた北海道の畑作機械化体系像を生産現場との意見交換に基づき描き出します。また、農作業 IT 化に関する技術相談や関連機器の展示、実演も行います。

■議事次第

総合司会：農研機構北海道農業研究センター企画管理部長  
(1) 開会挨拶（10：30～10：40）

農林水産省農林水産技術会議事務局  
農研機構北海道農業研究センター所長

(2) 講演(10:40~11:50)

座長：農研機構北海道農業研究センター畑作研究領域上席研究員 石田茂樹 氏

① 農研機構における IT 農業研究の枠組み

農研機構中央農業総合研究センター作業技術研究領域長 細川 寿 氏

② 農業の IT 化に関する北海道の現状と取り組みについて

北海道農政部食の安全推進局技術普及課主査 山本雅彦 氏

③ トラクタと作業機の通信制御技術の共通化がもたらすもの

農研機構北海道農業研究センター畑作研究領域主任研究員 濱田安之 氏

④ ハイブリッドGNSS 航法装置と農作業への適用技術

農研機構北海道農業研究センター水田作研究領域上席研究員 村上則幸 氏

(3) パネルディスカッション (13:00~13:45)

座長：農研機構北海道農業研究センター畑作研究領域上席研究員 澁谷幸憲 氏

パネラー：各講演者

(仮) 生産者(幕別町) 箕浦邦雄 氏

地方独立行政法人北海道立総合研究機構(道総研) 農業研究本部

十勝農業試験場生産システムグループ研究主任 原 圭祐 氏

農研機構北海道農業研究センター畑作研究領域長 平藤雅之 氏

(4) 技術相談および農業機械の展示実演紹介 (14:15~15:15)

① 農作業の IT 化関連機器の展示・実演・紹介

ハイブリッドGNSS 航法装置、可変施肥機、作業機 ECU、トラクタ ECU、バーチャルターミナル

② 農作業の IT 化に関する技術相談会

(5) 閉会

■その他

移動用のバスが出ます(無料)。終了後帯広駅に戻ってきます。

<発行>北海道高度情報化農業研究会  
事務局：館山 則義  
〒060-0005 札幌市中央区北 5 西 6-1  
公益財団法人北海道農業公社 総務部  
TEL：011-241-7551 FAX：011-271-3776  
e-mail：[tateya@adhokkaido.or.jp](mailto:tateya@adhokkaido.or.jp)

編集委員：丸山 健次(酪農学園大学)  
TEL&FAX：011-388-4864